

立ち読みPDF

芦永奈雄著 Nao Ashinaga

コミュニケーション力を高める文章の技術

Forest
2545
Shinsho

まえがき





文章力、コミュニケーション力が高い人は「視点」が違う！

「ダメだ。なんで伝わらないんだろう…」

メール、企画書、プレゼン、報告書、ブログ、自己PRなどなど。

あなたが社会人であれば、文章を書く機会は数限りなくあるでしょう。文章に限りません。

職場や日常生活、コミュニケーションの場面で伝わらなくて困ることがよくありませんか？

実は、文章にしてもコミュニケーションにしても、言いたいことをうまく表現できない人、気持ちをうまく伝えられない人には、いくつかの共通点があります。

あなたもそのひとりではないですか？

まず次の文章を読んでみてください。

風の中をつき進め

土岐美紗季

「五秒前」

木立コーチの声はいつもとちがった。ピリピリしている。

私はスタート台に立っている。ストックを持ち、かまえる。足がガクガクする。

青々とした空。真っ白な雲が風によって流れている。速い。山の上からは町が小

さく見える。白い雪の世界が目の前に広がっている。光が当たると雪に反射して、

きらきらと輝く。白一色の斜面に赤、青、赤、青とポールが立っている。あの間を

すべるんだ。

緊張する。

「スタート！」

かけ声とともに思いっきりストックに力を込めてとび出した。ビュービュー。顔

に風がつきささる。

赤と青のポールの間を交互によけて、すべる。あつ、横風がきた。ブアー。ゴオオー。舞い上がる雪。目の前は真っ白。ころびそうだ。

「うわあつ！」

足にぐつと力を入れた。持ちこたえたぞ。背を低くし、前につつこんだ。スピードが増す。ビュウウ、ビュウウ。耳元で風が強くなった。風の中をすべる。斜面がせまってくる。ポールに集中。景色なんて見えない。前に進め。進め。

もっと進め。もっと速く進め。ヒュンヒュン。ヒュー。速く行け。

ゴールが見えてきた。かがんで、風の抵抗を弱めた。

「ゴール！」

三上コーチがストッププオッチを止めた。ブレーキをかけて、スキーのスピードを落とした。はあはあ。吐く息が白い。スキーが止まった。風も止まった。何秒だったのかな。おそかったのかな。

ヒュッテで暖まっていると、コーチが来た。タイムレースの結果が書かれてある紙

をかべにはった。みんなワツと集まった。一分一五秒三。

「がんばったなあ。」

三上コーチが言った。

あれから一年。今年も、もうすぐレーシングチームのみんなやコーチに会える。一年ぶりのみんなはどうなっているかな。

これは当時、小学四年生の女の子が書いた作文。

一年前まで、国語が大の苦手。

担任の先生からも、面談で、あまりにも国語がひどいからなんとかした方がいい、と言われ、お母さんが泣いて帰ったそうです。

わたしは国語専門の通信教育の塾を運営しています。

カリキュラムや教材などもわたしが作っています。

そのコースで、これだけ表情豊かで個性的な作文が書けるようになりました。

実に活いき活きしている。

その後、成績も上がり、作文コンクールでいくつも賞をとりました。

実を言うと、伝えることが苦手な人は、書き方以上に「視点」が合っていないのです。

言いたいことや気持ちを伝えることがうまい人の「視点」。

これがないと、書き方を教わっても、なかなか上達しない。

通常、うまくなるのに、「その道〇年」というのがよくありますが、「視点」や「感覚」をつかむのに年数がかかるということが多い。

教える人は、その視点が当たり前になっていたので自覚もない。

うまく教えられない。

わたしは、「視点」や「感覚」を伝えるのが得意なのです。

通信教育では、作文コンクールで大臣賞や総裁賞など日本一のレベルから、都道府県知事賞クラスまで数多く受賞者を出しました。

ほとんどが元は苦手な子たちでした。
実績の一部を紹介します。

- 信じられない！ 講習会を受けただけで偏差値42が70になった！（高校一年）
- ストーリー作文を三週間やっただけで、学力50が、66まで上がった！（中学二年）
- ストーリー作文をやっただけで、国語はもちろん、英語の訳、数学、理科、社会の文章問題まで解けるようになって、五教科すべての点数が上がった！（中学二年）
- ストーリー作文を書くようになって、国語の偏差値が66になった！ 今までは人と言えない成績だったのに（中学三年）
- 授業参観で作文を読んで、先生・親・クラスメートみんなから大絶賛（小学四年）
- 「スゲエ」。作文をみんなの前で発表するなり、起こった声（中学一年）
- コースを受講後、テストで20点も平均点を上回るようになった！ 今までの国語のテストは平均点ばかり（中学二年）
- 作文コンクールで賞をとって、新聞社から取材された！（小学六年）



作文コンクール受賞者も続出！

- 第28回 「心に残る医療」 体験記コンクール厚生労働大臣賞受賞（当塾スタッフ）
- 国際ボランティア作文コンクール総務大臣賞受賞（小二）
- 国際ボランティア作文コンクール日本郵政公社総裁賞（中三）
- 第36回 おかねの作文コンクール毎日中学生新聞賞（全国五人の中の一人）
- 第17回 感動作文コンクール佳作（全国で一〇人の中の一人／北海道）
- 全国小・中学校作文コンクール読売新聞社賞（北海道）
- 全国小・中学校作文コンクール優秀賞（青森県）
- かんぽ作文コンクール郵便局長賞（北海道・小五）
- 青少年読書感想文コンクール優秀賞（岡山・小四）
- 第5回 ドラえもん大賞全国作文コンクール藤子プロ特別賞（青森・小六）

…ほか、新聞投稿、取材掲載など多数。

効果は、すでに実証済みです。

「伝えること」と「伝わること」はまったく違う！

人は、伝えたいことがあるとき、一方的に伝えようとしています。

しかし、「伝えること」と「伝わること」の間には、想像を絶するほどの隔たりがあります。

文章もコミュニケーションも同じ。

自分が伝えたいことを人にうまく伝えられない人は、隔たりに気づいていません。

この本では、「書き方」はもちろんのこと、伝えることを苦手とする人がなかなかつかめない「視点」や「感覚」が分かるように書きました。

あなたがこの本を読み終えたときには、目の覚めるような経験をしていることでしょう。

文章得意の世界へ、あなたをご案内します。

ホントに、苦手意識が、得意に塗り替えられた――。

読み終えてこうなるのは、わたしにとっては大したことではありません。

――いや、なにかが変わった。

あなたの人生でそう思ってもらえるのがこの本の最大の目的です。

最初に紹介した小学四年生の作文。

「作文が得意」というレベルを超えているのは、感じとってもらえることでしょう。
この子は人生が変わったのです。

わたしはこれまで、子どもから大人まで何人にもそういう経験をしてもらってききました。
た。

あなたにも、そういう経験をして欲しい。

「単なる「コミュニケーション」「文章」の実用書を超えた本にしたい。
その思いでこの本を書きあげました。
あなたも「新しい自分」を始める旅に、出ませんか？

さあ、準備はいいでしょうか？

新たな旅の、記念すべき一ページ目へ踏み出してみてください。

芦永奈雄



まえがき

文章力、コミュニケーション力が高い人は「視点」が違う！／4

作文コンクール受賞者も続出！／10

「伝えること」と「伝わること」はまったく違う！／11

第1章 伝えることが苦手な人の「三つの盲点」

書くとき頭の中が整理される！／20

三つの盲点を克服する！／24

①書くのにもものすごくエネルギーを消費する！／25

②感情が伝わりにくい！／27

③構成を考える必要がある！／28

分からない人に、いかにうまく伝えられるか？／31

第2章 なぜ、あなたの気持ちは伝わらないのか？

「気持ち」を書いても、伝わらない！／36

なぜ、伝えたい思いが伝わらないのか？／41

相手の興味を惹く文章を書く！／48

「気持ち」を書かずに伝える方法／50

「気持ち」ではなく、「事実」を書く！／58

第3章 「伝わる文章」を書くために、まず意識を変える！

「なにを伝えたいか」を意識すると伝わらない！／64

「どう読んでもらいたいのか」で書き方が変わる！／71

なぜ「なにを言いたいのか分からない」と言われてしまうのか？／76

上達してくると陥るワナがある！／78

「いい文章が書けた」という錯覚／85

第4章 文章力を飛躍的にアップさせる「ストーリー作文」

子どももスラスラ書ける必殺のノウハウ「ストーリー作文」／90

① 起こった出来事を順に書く！／97

② 結果は最後に書く！／99

③ 「気持ち」を書くのではなく、「事実」を書く！／102

文章が得意になる三つのカギ／105

第5章 文章の技術を活かす「三つの要素」

料理にたとえると、文章に必要なものが見えてくる！／110

食材（題材）がないと料理（文章）は作れない！／113

題材がなければ、「文章の技術」は役に立たない！／118

簡単に書いて、しかも読み手を惹きつける「組み立て」①／123

簡単に書いて、しかも読み手を惹きつける「組み立て」②／130

第6章 レベルの高い「本格的な文章」を書く方法

レベルの高い「本格的な文章」を書く！／140

テーマを重視しない日本の教育／148

「文章の技術」だけでは、役に立たない！／150

テーマがあれば、ゆるぎない文章が書ける！／153

第7章 文章力を仕事に活かす！

目的がはっきりしなければ、文章は書けない！／160

「報告書」は読み手の立場を考えて書く！／165

相手の印象に残る「自己紹介」の作り方／167

みんなが訊きたがる「スピーチ」の作り方／172

文章はあなたという人間そのもの／176

あとがき

本当の旅は始まっている／

180

